



特集

人馬一体、躍動する巨軀—東北馬力大会

TOPICS

選りすぐりの種雄馬一堂に—北海道優良種雄馬展示会
木曾馬を語る 田中勝己／赤保谷明正

馬事協会Information

馬凍結精液利用推進へ独で技術研修
対州馬、与那国馬の生産率向上へ現地対策
3道県で馬事知識普及公開セミナー
遠野乗用馬市場 伸び悩む
韓国の馬登録事業推進に協力



馬事協会便り

2009年3月 第2号

目次

- 1 人馬一体、躍動する巨躯
—東北馬力大会馬の里遠野大会
富手 研司
- 2 帯広で人間ばん馬世界大会／旋丸 巴
- 3 選りすぐりの種雄馬一堂に
北海道優良種雄馬展示会
- 6 **談論風発** 木曾馬を語る
田中 勝己、赤保谷 明正
- 9 日本ウマ科学会、JRAと合同でシンポ
- 10 馬の毛色 芦毛のメカニズム
戸崎 晃明
- 12 馬の切手(ドイツ) 田内 昂作
- 19 JRA馬事文化賞、NARグランプリ
- 20 馬のオペラ、ジンガロ来日公演
- 21 馬に惚れ抜いた人生／高本 延吉
- 現代流 鎔馬考**
- 23 **いま流 鎔馬が熱い**
寺岡 輝朝／—全国調査から
- 馬事協会インフォメーション**
- 13 馬凍結精液利用推進へドイツで技術研修
- 14 生産率向上へ現地対策—対州馬、与那国馬
3道県で馬事知識普及公開セミナー
遠野乗用馬市場、伸び悩む
会有農用種雄馬2頭を購買
馬生産技術向上推進委員会を開催
JRAから乗用種雄馬譲り受け
- 18 韓国の馬登録事業推進に協力
- 19 3地区で農用馬対策ブロック会議開催

●表紙写真

圧巻、一流馬による熱戦 東北馬力大会馬の里遠野大会
(写真提供／遠野市産業振興部)



土盛り障害の突破が勝敗の鍵に(写真提供:遠野市産業振興部)

岩手県遠野地域は、北上山地の石灰岩地質を基層とする広大な牧野が点在し、澄み切った空気と清らかで豊かな水資源に恵まれ、壮大な自然環境が万物を包み込む。

これら風土が、馬の生産に最も適した土地柄として、古来はもとより、藩政時代から明治・大正・昭和への時代を通じ、一貫して全国有数の馬産地としてその名を馳せてきた。

さらに、馬は農家の宝として「南部曲がり屋」に象徴されるように家族の一員として愛育され、農耕・林業・良質堆肥たいひの生産・交易経済の流通手段として広範に亘り人々の生活、産業経済の発展を支えてきた。

これらの歴史背景のもとに、最近では馬に関わるイベントも増え、加えてマスコミも取り上げる機会が多くなり、馬を懐かしむ老、馬に憧れる若、馬とのふれあいを求める家族が各種イベントに集まるようになった。

熱戦に声援を送る
6000人の観衆



力強くスタート(写真提供:遠野市産業振興部)

人馬一体、 躍動する巨躯

東北馬力大会馬の里遠野大会

富手 研司



紹介する東北馬力大会馬の里遠野大会は、昭和51年に宮守村(現遠野市宮守町)に結成された愛馬同志会が「宮守東北馬力大会」を開催したのが始まりで、宮城、山形、青森、岩手各県の有志が集い、宮守村一本杉グラウンドの特設コースで行われてきた。村・県内外から1,000人の観衆が集まり、小さな村での行事としては画期的な催しであった。以来、数年間の休止はあったものの、平成20年(6月22日開催)で第34回目を迎える歴史ある大会となっている。

主催する東北馬力大会馬の里遠野大会実行委員会は、地域の活性化と観光振興の一大行事として位置づけ、^{ばんば} 輓馬愛好者が広く東北地域から集い、その技量を競いながら、当地域の馬文化を通して広い交流を深めるとともに、当地域を馬の里として広く全国にアピールし、併せて輓馬育成の意欲向上を図ることを目的として開催している。

この運営は、遠野市長をはじめ、市産業振興部ふるさと交流課観光振興係(実行委員会事務局)の絶大なバックアップを受け市民一丸となった運営体制となっている。

開催会場は、岩手県遠野市宮守町柏木平の猿ヶ石川河川敷に整備した「^{ゆうゆう} 優遊広場常設会場」で、幅14m、長さ150mのコースに、途中2箇所^{そり}に1mと2.5mの土盛り障害を設置している。

平成20年の大会では、出場馬54頭(うちポニー15頭)による9種目18レースが行われた。

競技内容は、ポニーの部(中型・大型) ^{そり} 橇への積載量50貫・80貫、二才～五才馬の部(積載量100貫(375.0kg)～220貫(825.0kg))、実力(戦績)と橇の積載量で区分される四流～一流馬の部は、四流馬(積載量200貫(750.0kg))、三流馬(積載量220貫(825.0kg))、二流馬(積載量240貫(900.0kg))、一



レースの合間にカントリーダンス、乗馬吹き流しレース、馬車運行なども

流馬（積載量260貫（975.0kg））となっている。

各競技ともタイムレースとし、二才、三才、四才馬の各優勝経験馬は10貫のハンディを負う。

また、レースへの参加は、競技馬の扱者1名、助手1名の2名のみとし、競技審判長をにおいて、競技の公正

を確保している。

発走係の合図により一齐にスタート、土盛り障害の前で、橇の調整と馬の呼吸を整えるため一旦停止し、再び、踏ん張って前進し、これを繰り返して障害を越えきる技が扱者として腕の見せ所である。

圧巻は競技の最終を飾る一流馬のレースで260貫の鉄製馬橇を引き、歯を食いしばって力の限りを尽くし、躍動感溢れる、まさに「人馬一体」となった姿を目の当たりにし、河川敷スタンドを埋めた約6,000名の観衆は手に汗握り一丸となって声援し、ゴールした人馬へ喝采の拍手を送るのである。

会場ではレースの合間を縫って、遠野郷馬っこ王国と遠野馬の里によるカントリーダンスや乗馬吹き流しレース等多様な演技が披露され、参観者の飛び入りもあり終始賑やかな馬のイベントとなっている。

（とみて・けんじ（社）岩手県畜産協会家畜改良部長）

帯広で「人間ばん馬世界大会」

25組の頂点に 自衛官チーム

旋丸 巴

10月18,19の両日、帯広競馬場では、地元財界で結成された「ばん馬と共に地域振興をはかる会」主催の「ばん馬まつり」が開催された。

昨年に続いて2回目となった「ばん馬まつり」では、北海道和種馬（ドサンコ）による流鏑馬や、ばん馬のパネル展、装蹄実演など多数の催し物に加えて、農水産物販売ブースや飲食屋台などが並ぶ一大イベントとなった。そんな中で最も注目を集めたのは「人間ばん馬」。ばんえい競馬の本馬場を使つてのレースは、その迫力で昨年、大人気を博したが、今年は更にグレードアップ。2008ワールド人間ばん馬チャンピオンシップ世界大会と銘打ち、優勝賞金も100万円と大幅増額。このため、遠くは高松市から駆けつけたチームもあり、またJICA（国際協力機構）の研究者として帯広に在住する諸外国の人々なども加わって、「世界大会」の名に恥じない賑やかな大会となった。

19日の大会当日、会場には人気お笑いコンビ「ハリセンボン」が登場し、華やかに開会。レースでは参加25チームが180kgの重りと騎手が乗るソリを5人で引き、速さを競ったが、砂の深さと高さ1.5mの障害（坂）に選手達は、大苦戦。力尽きて競走中止するチームも。



予想以上に厳しい障害に選手たちは大苦戦

予選を勝ち抜いた精鋭5組で争われた決勝戦では更に重量がアップされ210kgに。障害を乗り越えると、選手の顔に苦悶の表情が浮かび、選手、観客共に、平素、このコースを疾走する馬達のパワーを改めて実感させられた。そんな過酷なレースを制したのは、美幌町の自衛官チーム「カイリキオー1セイ」。人間ばん馬で有名な置戸町の強豪チーム「林協ホースマン」とのデッドヒートを制しての堂々たる優勝だった。

こうして大いに盛り上がった「ばん馬まつり」だが、19日の入場者数は平常の3倍の3000人以上。「ばん馬と共に地域振興をはかる会」の川田彰博会長も「レジャーとして楽しむ次代のばんえい競馬ファン層を開拓するためにも、こうしたイベントは重要。これからも、ばんえい競馬を身近に感じてもらう機会を提供したい」と語る。

（つむじまる・ともえ エッセイスト）

選りすぐりの種雄馬一堂に

—平成20年度北海道優良種雄馬展示会—

北海道の馬産地生産者団体で組織する北海道輓用馬振興対策協議会(会長・山本勝博十勝農協連会長)は10月8日、音更町の十勝農協連家畜共進会場で平成20年度北海道優良種雄馬展示会が開かれた((社)日本馬事協会などの後援)。これは、北海道内における輓用馬の改良と生産意欲を高めることを目的に開いたもので、今回は10年ぶり。農用馬生産の減少を背景に出品頭数は前回に比べて3分の1になったが、展示会指導員の講評は「飼養管理、手入れが行き届き、申し分ない」と伝統産地の確かな力量を示した。

展示会場には朝早くから道内を中心に生産者、農協、ばんえい競馬関係者約200人が訪れた。開会にあたり佐々木啓文北海道輓用馬振興対策協議会副会長があいさつ。この中で「農用馬は最盛期の7000頭から3000頭~2500頭まで減り、まさに厳しい時代を迎えている。しかし、2年前のばんえい競馬存廃問題を経験し、これを乗り越えてきた。このような展示会はなかなかできないが、地道な努力を積み重ね1頭でも多く優秀な産駒を生産すれば、必ずや実を結ぶと確信する」と励ました。来賓の独立行政法人家畜改良センターの飯田雅昭業務第二課長は「新生ばんえい競馬は多彩なイベントを行い、ファンに親しみを深めている。十勝牧場もなお一層優良な貸付馬を生産し、期待にこたえて行きたい」とエールを送った。



名馬の記録を残す
アキバオーショウ

展示会は個体展示、集合展示の順に行われた。個体展示では各種雄馬のばんえい競馬競走成績のほか、種雄馬になってからの種付け頭数、その産駒の競走成績等が紹介された。

数々の重賞勝鞍、生涯獲得賞金を誇るアキバオーショウ、ウンカイがでけると、懐かしそうに見入る姿が印象的だった。生涯獲得賞金のランクでは中堅だが産駒のばんえい競走成績で注目されるブラックジョージ、本年の種付け頭数73頭と群を抜くツルマキシザンなどに熱い視線が注がれた。また、数少ない出展ながらも純血のペルシュロン、ブルトンも関心を集めた。

展示会場で生産者の声を聞いてみた。



個体展示で管理状況を見る指導員の大沼氏とウンカイ

「これだけまとまって優良種雄馬を見られる機会はないので、大変参考になった」「供用のシーズンが終わり、やや肉が落ちているが、立派な馬が多い。馬を見る目が養える」「とてもいい情報交換の場」と好評だった。

(社)ばんえい競馬馬主協会の小坂良孝事務局長は「このような機会はないので、大変興味深い。ばんえい競馬で大きな成果を挙げたアキバオーショウやウンカイなどは馬体、蹄もしっ

かりしている」と見入っていた。

展示会場に隣接したパドックではD-ランチ代表の持田裕之氏により1歳馬を使った軌系馬の馴致・調教研修会も行われた。

集合展示の後、飼養管理状況について(社)日本馬事協会の大沼孝宣北海道事務所長から講評が行われた。全体としては「日常の飼養管理が行き届き、申し分ない」と高い評価だった。しかし、一部には蹄の手入れが不十分なためか硬い、もろいものが見られたこと、やや太り気味(過肥)が認められた。蹄の支障は種馬にとっては致命的なものになりかねない。このため日常の手入れを徹底し、特に蹄を清潔にし、乾燥を防ぐなどにより裂蹄を予防するよう指摘があった。過肥の問題解決は放牧、パドックでの

運動、引き運動励行につくる。

これらの問題は種雄馬に限らず、種雌馬(繁殖馬)にも共通する基本的要点であり、馬の体調を万全に保ち、健康を維持するに尽きる。

3番目は伝染病発生予防とコンプライアンス(法令遵守)の問題。伝染病では特に馬インフルエンザ、馬パラチフスの発生はその地域の馬産に与える損失は大きく、影響は甚大である。馬パラチフスは雌馬の流産などを引き起こすの

で発生防止のためワクチン接種を徹底し、最悪の発生した場合は速やかに届け出て欲しいと呼びかけた。



集合展示場でのサンデーライアン



コプー



エビスカチドキ

出品 番号	名 号	品種 毛色 生年月日 産地	父 母	母の父 祖母の父	体高 胸囲 管囲	備 考	地区名
							市町村名 管理者氏名
1	スミヨシセンジョー	半血種 (軌系) 鹿毛 09.04.29 滝上町	半血(軌) センショウリ	半血(軌) カミタカラ	172 249 27	本年種付頭数 27 H11年～H19年出走。 生涯獲得賞金:28,072,000円。117戦29勝 種付累計頭数:53頭 重賞勝鞍 ナナカマド賞('99)、イレネー記念('00)、ポブラ賞('02)	十勝 帯広市 (有)帯広ファーム
2	エビスカチドキ	半血種 (軌系) 栗毛 07.03.22 帯広市	半血(軌) クロタカ	ベルジ GREENTOP SIR WILLIAM	184 242 29	本年種付頭数 15 H9年～H17年出走。 生涯獲得賞金:16,549,500円。206戦24勝 種付累計頭数:90頭 主な産駒 サクラエビス(オープン)、サカエキング、グラントベガサス、ヒカルカチドキ	十勝 幕別町 西村 義治
3	アキバオーショウ	半血種 (軌系) 栗毛 04.04.15 本別町	半血(軌) アオヤマトップ	ブル 鉦 梅	178 240 29.5	本年種付頭数 35 H6年～H15年出走。 生涯獲得賞金:78,087,500円。195戦46勝。 種付累計頭数:249頭 主な産駒 コスモオーショウ、キングオーショウ、ユメノリュウ、モコトヤマトオー、スーパーオーショウ、ワタシハスゴイ、アキバユウコ、モコトコマ 重賞勝鞍 旭王冠賞('97,'98,'00年)、ナナカマド賞('94年)、旭川記念('96年)、北斗賞('00年)、帯広記念('02年)	十勝 新得町 長野 功
4	サンデーライアン	半血種 (軌系) 鹿毛 08.04.30 平取町	半血(軌) オーカン	半血(軌) ハヤホマレ	177 240 23	本年種付頭数 42 H10年～H18年出走 生涯獲得賞金:2,678,000円。207戦29勝 種付累計頭数143頭 重賞勝鞍 ナナカマド賞('98)	十勝 幕別町 村田 律雄
5	タカダヤジェット	半血種 (軌系) 栗毛 09.04.01 佐呂間町	半血(軌) センショウリ	ベル系 ウシオドトー	181 235 27	本年種付頭数 27 H11年～H17年出走。 生涯獲得賞金:11,481,000円。136戦16勝 主な産駒 サンデージャパン(2オ)、 タカダヤハヤテ(2オ)	十勝 豊頃町 松井 孝一

出品 番号	名 号	品種 毛色 生年月日 産地	父 母	母の父 祖母の父	体高 胸囲 管囲	備 考	地区名
							市町村名 管理者氏名
6	ウンカイ	半血種 (鞍系) 青毛 06.03.10 帯広市	半血(鞍) マツノコトブキ 半血(鞍) ミナル	ベルジ マンゼンストロング ホース ベル アプレス	178 248 31.5	本年種付頭数 54 H8年～H16年出走。 生涯獲得賞金:41,549,000円。175戦26勝 種付累計頭数:282頭 主な産駒 ニシキエース(黒ユリ賞、プリンセス賞)、キンドル、シンエイウンカイ、ジャンクスピード、ヒメウンカイ、ウンカイシヨウ、イレマルリュウジン、マツカゼキング、ヒメノハツヒメ、ドオーダッシュ、イシノウンカイ、マツノケンシン、スーパーカチ等々	十勝 本別町 樋口 敏則
7	ツルマキンザン	半血種 (鞍系) 鹿毛 08.05.20 当別町	半血(鞍) テンショウリ 半血(鞍) ツルマキクイン	ベルジ ジアンデユマレイ ブル ウレマ	184 240 30	本年種付頭数 73 H10年～H19年出走。 生涯獲得賞金:24,845,000円。219戦34勝 種付累計頭数148頭 H19年 ばんえい記念出走(6着) H14年～H18年 オープンでの特別レースで7勝。	十勝 足寄町 只野 幸一
8	欧 寶	ペル 青毛 11.03.25 音更町	ペル フランプール ペル 財 肖	ペル 克 惹 ペル 岩 洋	174 225 27	本年種付頭数 10 H14年～供用開始 十勝管内では、数少ない純ペルの巡回型種雄馬として供用。	十勝 陸別町 水間 松男
9	鋒 分	ブル 栗毛 17.02.27 音更町	ブル 槍 参 ブル 校 殊	ブル ファンシュ ブル 紡 翠	165 228 28	本年種付頭数 13 H20年～供用開始 十勝管内では、唯一の純ブルの種雄馬。	十勝 陸別町 村上 昭一
10	コマローレンス	半血種 (鞍系) 鹿毛 10.04.17 本別町	半血(鞍) ダイヤテンリュウ 半血(鞍) 宝富士	半血(鞍) マツノコトブキ ペル 栄 神	180 245 29	本年種付頭数 23 H12年～H20年出走。 生涯獲得賞金:13,064,500円。219戦25勝	釧路 白糠町 山田 恵理実
11	ブラックジョージ	半血種 (鞍系) 青毛 07.05.15 音更町	ペル カズミノル 半血(鞍) タカラユウヒメ	半血(鞍) ダイショウリ ベルジ ジアンデユマデイ	186 240 30	本年種付頭数 21 H9年～H14年出走。 生涯獲得賞金:6,091,000円。112戦8勝 種付累計頭数130頭 主な産駒 グレイトアマゾン、コウエイヒカル、シベチャノジョージ、ニシキジョージ、ブラックストーム、ホクショウジャパン、ホッカクヒメ等々	釧路 弟子屈町 阪口 栄造
12	策 熔	ペル 芦毛 18.03.31 音更町	ペル コプー ペル 輝 頂	ペル 勝 栄 ペル アンクール	172 222 28	本年種付頭数 0 H20年9月 配置開始	釧路 標茶町 藤原 仁志
13	コプー	ペル 青毛 10.06.05 フランス	ペル GLAMOUR ペル CHIC PRINCES	ペル SARAZIN ペル SARAZIN	173 225 33	本年種付頭数 32 現在7頭の産駒が全国で種雄馬として活躍している。	根室 別海町 桑川 正幸
14	キタノスサノオ	半血種 (鞍系) 栃栗毛 08.04.29 稚内市	半血(鞍) キタノハヤブサ 半血(鞍) 芳 梅	ペル 栄 神 ブル ボヌール	180 230 31	本年種付頭数 22 H10年～H19年出走。 生涯獲得賞金:24,272,000円。218戦36勝。 H17年 ばんえい記念出走(4着入賞) H13年～14年 オープンでの特別レースで5勝	上川 士別市 加藤 勝美

木曾馬を語る

馬のモチーフを
生かした街灯



産業技術の進歩、地球温暖化や環境破壊等によって在来家畜の危機が心配されています。長い間、家族の一員のように暮らしてきた日本在来馬にも大きな変化が訪れています。そこで、かつて絶滅の危機から立ち直った木曾馬の里はいまどうなっているか、田中勝己木曾馬保存会会長と赤保谷明正(社)日本馬事協会会長にざくばらんに語っていただきました。



木曾馬保存会会長
田中 勝己 (たなか かつみ)

昭和12年7月16日生まれ。木曾山林高校卒。木曾福島町町議8期を務め、平成10年木曾町長に当選、17年木曾福島町、日義村、開田村、三岳村合併により誕生した木曾町長に当選。



社団法人日本馬事協会会長
赤保谷 明正 (あかぼや はるまさ)

昭和11年11月2日、東京都西多摩郡日の出町生まれ。東京大学法学部卒。農林省入省。農地、農蚕園芸、経済、食品流通の各局、水産庁等を経て関東農政局長、畜産局長、平成5年退職。平成17年12月から日本馬事協会会長。

赤保谷 ● 昨年夏、「日本で一番美しい村」(岩波書店)というすばらしい本が出ました。その中で木曾町開田高原と木曾馬が詳しく取り上げられていました。これはNPO法人「日本で最も美しい村」連合が取り組みを紹介したのですが、美しい村づくり運動は世界的な運動なのです。

田中 ● そうです。フランスで生まれて現在は、イタリア、カナダ、ベルギー、日本などの6か国で運動が發展しています。開田高原はもともと景観を守ることに高い意識が高い地域です。美しい風景だけでなく、そこに生きる人々の生活や心遣いが村の美しさを形成していく。これが大切な資産だと考えています。木曾馬を大切に守り育てるのもその1つなのです。

赤保谷 ● 「農業が基本となっていく観光施策」が大切といわれていますね。こういうところに住みたいという人も増えているとか…。

景観は、かけがえのない財産

田中 ● 3年前に「週刊新潮」のグラビアで開田高原が取り上げられた時は、紅葉の時期とあいまって観光客が大型バスや自家用車でどっと来ました。あれには驚きました。観光で開田を訪れて、そのうちに住み着いてしまうようになった人も増えています。陶芸、工芸いろいろありますが、変わったところでは鍛冶屋をやる方もいます。

赤保谷 ● おんたけさんここは御嶽山など景観が美しく、心が洗われる思いがします。鍛冶屋さんは畑を耕すくわ、かま、馬の蹄鉄などを作るのですか…。

田中 ● ランプを作ったり、頼まれると特殊な農具も作る。装蹄は伊那谷から専門家を呼びますが、木曾馬は蹄が強いので基本的には装蹄の必要はありません。馬車を引く馬以外は蹄鉄を打たないのです。

赤保谷 ● 木曾馬は胴長短足、粗食に

耐え、辛抱強くしておとなしいと聞きます。濃厚飼料を与えず、野草だけで十分とはいえ実際にはエサ代、人件費もかかるんでしょうね。

田中 ● 木曾馬の里では年間70~80トンの輸入乾牧草を使いますが、可能な限り地域で調達できる青草を与えます。

赤保谷 ● 馬に与える飼料は、乾草は別として、購入飼料はふすまのようなものですか。

田中 ● 昔は購入飼料はなく、全部野草でした。家では私が高校生の頃まで馬を飼っていましたが、馬はいまよりやせていましたね。いま農家で飼っている木曾馬は子馬の時から好きなだけしっかり食べさせ、使役しないから太ってメタボだ(笑)。肥えているだけでなく体高もやや高くなっている。体型は昔に比べ変わってきていますね。

赤保谷 ● うち(東京都西多摩郡日の出町)は昔親父が鉄工所をやっていた、おふくろの実家も日の出町ですが、山林農

家で馬を飼っていました。おふくろの家でも当時は玄関を入ると東側に厩があり、台所や囲炉裏のある場所から馬が見えるようになっていた…。

田中 ●うちは一日中日が入るようにと、西南に厩がありました。集落には40軒ほどの農家があり、どの家も2、3頭の馬を飼っていました。田起こし、荒くれ(代かき)、田植えが終わると700町歩ほどある牧場へ放牧しました。秋に牧場から下ろしてくると、朝晩の草刈りが日課でした。

赤保谷 ●アセビという木、うちの方ではブスゴというんですが、その木は毒なので、その下に生えている草はエサにできなかった。家で飼っていた山羊に間違っただけで食べさせてしまい、泡を吐いて一晩で死んでしまったことがある。でも馬は毒の草を知っていて食べないそうですね。

田中 ●確かに馬が絶対食べない草があった。

赤保谷 ●子供の頃には、荷物の運搬用の2輪の馬車を引く馬がいた。馬方に乗せてもらった記憶があります。

人と馬、連綿と続く共生の歴史

田中 ●馬はどこの家にも2、3頭いて大事にされていた。毎年子馬が生まれていましたね。

赤保谷 ●農耕用、運送用と馬がいなければ生きていけない時代だったから…。子馬が生まれるとお赤飯を炊いて祝ったそうですね。「原義亮の足跡から辿る木曾馬のきた道」(原文子編著)によると、以前木曾では子取り繁殖の馬飼育農家には繁殖用の雌馬が3頭、当歳馬が2頭で5頭いるのが普通だったと書いてあった気がします。

田中 ●私が物心ついた頃は、養蚕をしている農家は養蚕に人手がかかるので、大体母馬は多くて3頭だったと思います。

赤保谷 ●桑の葉を摘み、それを蚕に与える、毎日休むわけには参らない、養蚕は手間がかかる。養蚕は明治の頃から



① 御嶽山を望む放牧場
② 小高い丘にある丸山観音と石仏群
③ 中・高校生が職場体験に訪れる



ですか。

田中 ●私の家は総2階で、2階は蚕を飼っていました。夏は養蚕と馬、冬は炭焼き。蚕はいい金になっていましたね。

赤保谷 ●私が農林省の現役の頃、養蚕農家が5万戸を切るかどうかという時だった。5万戸くらいなら農家に背番号を付けてでも養蚕振興をやれと言われてたんですが、今では1,000戸を切るかどうかだ。和服を着なくなったという生活様式の変化が養蚕を衰退させ、外国からの生糸の輸入に頼っている。

ところで対州馬や宮古馬が20頭台に減っています。それらの馬がいなくなると人間の生活にとって困るのか、ということ言う人もいます。そこで、なぜ在来馬を絶滅から保護しなければならないのかということをよく考える必要があります。

田中 ●いろんな生物がいて、その中で人間が存在しているわけだから。

赤保谷 ●学術的な意味での種の保存としては分かるが、その種が絶滅してしまったら、人間が生活する上で本当に困ることがあるのか、かつて存在していた動植物で今は絶滅してしまったものも沢山ある。それで人間は困っているのかということだ。

しかし、遺伝資源は将来どのように使われるようになるか分からない。だから良い形質をもった種も、悪いと思われる形質をもった種も残しておく。これがジェーンバンクだ。

馬の世界でも凍結精液で保存しておいて、必要な時に交配に使える時代にきている。凍結授精卵で保存しておくことが出来る時代がくるかもしれないが、現在はまだ生きた馬で保存しておくという方法。エサを与えなければならない、飼育管理に人手がかかる、金がかかる。

いつ必要になるか分からない遺伝資源を保存しておくということは、保存して採算がとれれば別だが、民間でやるのは大変だ。動植物の種の保存、遺伝資源の保存は、国の仕事というか、国が相当にテコ入れをしても良い課題だと思う。先日テレビで環境省が絶滅危惧種の草花の種子を冷凍保存するために収集を始めたという報道をしていた。

田中 ●木曾馬の保存については日本獣医生命科学大学、岐阜大学の先生方が遺伝子多型と毛色分布を調査した結果、DNA配列はほとんど同じで優性遺伝子を保有しており、毛色も単一化していた。つまり近親交配により近交

係数が高まっている表れだといいます。そこで「今きちんと調査研究して、対策を打っておく必要がある」と町議会で発言すると、赤保谷会長がおっしゃったのと同じようなことが言われたんですよ。「保存に何の意味があるんだ…」と。(笑い)

赤保谷 ●で、どう答えたんですか。

田中 ●だから、種の多様性を維持するために重要だと。そうはいっても雲をつかむような話で、種の保存に何の意味があるのだということになる。しかしたとえば、と言ってたとえ話をしました。馬がいなくなったら、ある種の植物が消える、その植物が消えるとある種の昆虫が消え、するとそれが人間の病気に関係するとこんな話をしました。まあ、人間が多様な生物の一員として生きていることが分かっても、木曾馬がいなくなると人間が絶滅するわけでないですからね。非常に返答に困るわけですよ。

赤保谷 ●太古よりアメーバなどの単細胞が進化して、途方もない長い年月をかけて動物や人間に進化した。あまた人間のご先祖様がいて、多様な生物との調和の歴史の中で、我々は生かしてもらっているということを認識しなければならぬ。ちょっと情緒的ですかね…。

田中 ●そうですね。

国の果たすべき役割

赤保谷 ●(遺伝資源が)なくなったらどう困るか、計算できるものでもなし…。しかし、何年、何十年先に何に使われるか分からない、保存しておいてよかったと思われることがあるかも知れない、だからとって(保存して)おく。

遺伝子は一旦なくなってしまうと同じものは作れない。そういう性格の遺伝資源の保存というジーンバンクは国がやるべきなんだ。

田中 ●例えばトキは国を挙げてセンターを作り、例外規定を作り、輸入して保護繁殖をやっている。それなら木曾馬も国が保護対策をやるべきでないのかとい

っているんです。

赤保谷 ●木曾馬の里について、町はどれくらい財政負担をしているのですか。

田中 ●大体年間2,300万円くらいです。

赤保谷 ●馬に直接には関係のない木曾の多くの住民も、大勢の観光客が来ることによって受益していることも事実なんですよ。

田中 ●(総理大臣が)小泉さんになって、毎年骨太の方針がでるようになりました。それからですね、地方財政が本当に大変になったのは。命懸けでやっています。

赤保谷 ●北海道のばんえい競馬も大変です。4市で開催していましたが累積赤字が増え、廃止の危機に直面した。しかし、地元の強い熱意で帯広市の単独開催という形で存続しました。賞金や人件費など諸経費を切り詰め、地場経済の将来をかけた新生競馬として出発しました。

田中 ●うちも木曾馬を観光用だけでなく、(収益源などの位置づけで)今後どうするかが大きな課題です。

赤保谷 ●最近、流鏝馬やぶさめなどが人気になっていますね。でも、流鏝馬は常時やっている訳でもなし、入場料は取りにくいだろうし…。

田中 ●この前、日本獣医生命科学大学の向山明孝教授と話をしていたら、「木曾馬は温厚で、人になついているから、ホースセラピーに力を入れたらいい」と言われました。たとえば自閉症の人は木曾馬と1か月生活すると、100%治るといいますね。それから考えると、開田地区に自閉症の人のための学校をつくることも考えなければならない。

赤保谷 ●やはり需要を掘り起こして、収



農家が放牧中の木曾馬

入を確保する。難しい問題があると思うが、投資した資金の回収をすることができる仕組みが大切ですね。文化遺産としての馬事文化の保存は、ペイするかどうかということがポイントだ。在来馬の保存に取り組んでいる地域では、どこでもこの問題を抱えている。ペイすれば保存対策などどらなくても自然に保存されてゆく。

田中 ●生産面では、昔に比べ受胎率が低下しているのが課題です。単に技術的な問題だけでなく、生産を増やすと、産駒の価格が下がると心配する向きも一部にあるようです。

赤保谷 ●売買される馬の用途はなんですか。

田中 ●当歳で50万円であれば在来馬としては高いほうですが、おとなしい性格が魅力です。乗馬クラブ等からの引き合いは多いとはいえませんが、馬好きな人がペット的に飼うのは多いですね。

赤保谷 ●馬を飼っている人は年寄りが多いんでしょう。その人がやめたら、自分一代で終わり、せがれの代はやらんとか…。

田中 ●馬を飼いたいという問い合わせがあるので連絡すると、「主人が勝手なことを言っているので相手にしないで」と電話を切られることもあるようです。



赤保谷会長(左)と
木曾馬の里の中川剛さん



冬の木曾馬の里



引き運動

もっと生かしたい馬の利点

赤保谷 ● 木曾馬の里を訪れる人は、年間どれくらいになりますか。

田中 ● 見学は2、3万人、うち乗馬、引き馬、馬車に乗る人は約1万人でしょうか。ここ4、5年横ばい傾向です。新しい傾向

としては中学・高校生による馬房掃除手伝いや、職場体験に人気があります。

赤保谷 ● 保存会の今後の活動方向などお聞かせください。

田中 ● 馬を飼いたいという人は減っておらず、むしろ増えていると思う。ただ飼養者が高齢化してきているので、放置すれば段々減ると思います。やはり馬の利活用、つまり、いかに

馬の利点を生かせるか、用途開発が必要でしょうね。

もう1つは木曾馬の毛色は鹿毛と黒鹿毛に偏り、遺伝子の単一化があります。奇形など遺伝的障害をもつものが続出するようなことになれば、手のつけようがなくなります。最悪の場合は、日本には

在来8馬種がありますから類似した馬種の活用も含めてこの対策を進めなければなりません。その場合、外貌だけでなく、人となじみやすいなど性質の継承も大事な要素です。

赤保谷 ● 一時は純粋な木曾馬の種雄馬は1頭だけになってしまった。戦前の種馬統制法による影響は大きいですね。向山先生はどうやっていいといわれているんですか。

田中 ● 「本来の木曾馬の特徴を持つ種雄馬を複数頭育成し、遺伝子解析の結果を基に牧場間、農家間で相互貸借して作為交配を行い、必要な形質の保存と活用を図る」のがよいといっています。これに関連して、突飛かも知れませんが、昨年7月に日本在来馬のルーツともいわれる内モンゴルの馬を見てきました。馴致調教された馬はやさしく、人懐っこく、木曾馬と変わらぬと思いました。

赤保谷 ● 楽しいお話をお聞かせいただき、ありがとうございました。

最強の競走馬とは…陸上競技からの提言交えて

—日本ウマ科学会、JRAと合同でシンポ—

日本ウマ科学会は12月1～3日、都内で第21回学術集会を開いた。初日は「トップアスリートとしての競走馬」のテーマでスポーツ栄養、トレーニング、予防医学面からJRA競走馬総合研究所の3氏が報告、続いて日本の陸上界に一大旋風を巻き起こしている福島大学人間発達文化学類の川本和久教授(兼陸上部監督)が「陸上部からの提言」と題して講演を行った。

この中で川本教授は、「ミドルパワーを高めるためには、各種の40秒走を行っている」と例示し、疾走距離が能力拡大の鍵を握っていると述べた。強い運動の連続でなく、徐々に負荷が高まるように疾走距離を設定すること、レースを想定した配分のトレーニングが大きな意味を持つことを強調した。これは競走馬の坂路調教などでいわれる乳酸値や酸素摂取量の変化にもつながるもので関心が集まった。

一般講演では古林英一北海学園大学経済学部教授が「ばんえい競馬の再生と可能性」を報告、馬産地北海道の地域資源として多面的な機能を発揮する可能性と方向が浮かび上がったとし、苦境に立つ地方競馬存続の一つのモデルになりうると語った。(独)家畜改良センター十勝牧場の山崎正人氏は「新生子馬の眼瞼内反症に対する簡易治療法」を報告、注目された。同症は下まぶたに発生して、まつげやまぶたの刺激により角膜炎や結膜炎を起こし、放置すると視力障害を招くことがある。従来は早期の外科的処置が一般的だが、手術後のケアなど子馬にストレスを与え、畜主側に何度も保定の手間がかかるなどのデメリットがあった。しかし、シリコン樹脂液注入による治療は簡単で安全にでき、治療成果も外科的処置と同程度だった。

馬の毛色

～芦毛のメカニズム～

戸崎 晃明

はじめに

馬の毛色には栗毛系(栗毛・栃栗毛)、鹿毛系(鹿毛・黒鹿毛・青鹿毛)、青毛、芦毛、最近「ユキチャン号」などで話題となった白毛、これ以外にも、特に在来馬などに見られる佐目毛、河原毛、月毛などがあります。これらの毛色の中で、芦毛は生後間もない時期からしばらくは白っぽく(以下、Graying)なく、個体差はあるものの概ね3歳～6歳ぐらいにかけ白さが増していき、6歳を超える辺りから、その白さはピークを迎えていきます。そのため、競走馬や在来馬の血統登録においては、芦毛となる馬の場合、芦毛なのかそうでないのかを正確に判別するには、経過観察を必要とする場合があります。最近の研究で、ウプサラ大学(スウェーデン王国)の研究グループが、芦毛の原因となる遺伝子(STX17遺伝子)を突き止め、その遺伝子型を判定することで、科学的(客観的)に芦毛かどうかを判別できるようになりました。そこで、在来馬の生産者や登録審査を行っている方の一助になればと思い、本記事におきましては、芦毛のメカニズムと遺伝子診断法について解説します。

1 芦毛の表現様式

話が複雑になりますので、ここでは、主に栗毛と鹿毛、青毛、芦毛の関係について焦点をあて説明します。図1に示すとおり、芦毛は、栗毛や鹿毛、青毛などの毛色を隠すように表れてきます。そして、先にも述べたとおり、この白っぽくなる現象をGrayingと呼び、これは加齢(年齢の上昇)に伴って強く表れます。そのため、当歳馬などの生後間もない馬では、毛色

が栗毛であったり鹿毛であったり青毛であったりします。この現象が、血統登録審査の毛色判定で、芦毛かそうでないかを見極めを難しくしています。また、Grayingは後述する遺伝子型の違いでその程度が異なり、「G/G型」と表記されるように芦毛の変異を二つ持つ場合は、一つだけ持つ「G/g型」に比べ、より白くなります。

2 芦毛の原因遺伝子

芦毛の原因遺伝子は、ウマの25番染色体にあるSyntaxin 17(STX17)と呼ばれる遺伝子であり、その一部が変異することで、芦毛かそれ以外の毛色になるかが決まります。その原因となる変異とは、第6イントロン(たんぱく質をコードしない部分)と呼ばれる部分に、約4,500個のDNA(4.5 kbの塩基配列)が余分に存在することが主な原因と考えられています。STX17遺伝子の詳細な機能についてはわかりませんが、メラノサイトと呼ばれる細胞で、メラニンを作るメラノソームと呼ばれる細胞小器官の産生や輸送に影響を与えているのではないかと推測されています。

また、中学や高校の生物で、ヒトやウマなどの高等生物では、

染色体が2本(一対)ずつ細胞の中に存在しているということを学習されたと思います。芦毛は、この2本のうち最低どちらか一方に遺伝子変異(4.5kbの塩基配列の挿入)があれば芦毛となります。もちろん、両方に遺伝子変異を持つ場合も芦毛になります。このような現象を、遺伝学の専門用語では、「優性(Dominant)」であると表現しますが、この「優性」という言葉が、馬の能力に関する優劣と誤解を招く場合もあることから、JRA競走馬総合研究所では、これを「芦毛の法則」と呼び、競馬ファンやサークル向けに普及をはかっています。これを機会に、是非、「芦毛の法則」について理解を深めて頂けますと、著者としてもうれしい限りです。

3 芦毛の遺伝子診断法

芦毛は、STX17遺伝子の第6イントロンの重複が原因であることを述べましたが、遺伝子診断のためには、この部分が重複しているのかしていないのかを、実験的に証明することが、「キー」となります。図2は遺伝子診断の概略を示しており、図3は、その遺伝子診断に基づいた結果を示しています。詳細は省きますが、芦毛の因子を持つ場合には、図2の「G」と書かれた方の4.9kbのDNA断片がLA-PCR法という方法で増幅され、非芦毛の因子を持つ場合には、図2の「g」と書かれた方の5.4kbのDNA断片が増幅されます。図3は、北海道

和種馬とサラブレッドを用いての遺伝子診断の結果を示していますが、先にも述べた通り、芦毛は一つでも芦毛の因子である「G」を持てば芦毛となりますので、図中に、4.9kb (G)と5.4kb (g)の2つのバンドを持つ「G/g」の個体は芦毛と判断されます。また、図中には示されていないものの、下側の4.9 kb (G)のみのバンドを持つ場合の「G/G」の個体も芦毛と判断されます。一方、「g/g」と示されている上側の5.4kb (g)のバンドのみを持つ個体は、芦毛以外の毛色と判断されます。

4 芦毛とメラノーマの関係

話は変わって、ここからは芦毛とメラノーマの関係について説明します。多くの読者は、芦毛の馬はメラノーマになりやすいということが経験的に知っているのではないかと思います。メラノーマは皮膚に見られる癌(がん)の一種であり、病態が進行すれば外科的手法での治療が必要な疾患です。メラノーマの病態の進行については、Grayingと同じように「G/G」型の方で、病態がより進行するという報告もなされています。日本の競走馬においては、芦毛と芦毛で交配をさせるという事例があまり無いため、ウプサラ大学(スウェーデン王国)の研究

論文にあったリピツァ種ほど(16世紀から旧オーストリアの王立牧場で飼育され、おもに古典馬術用として育種改良され、そのほとんどは芦毛)心配する必要はないと思います。しかし、北海道和種馬など由来馬の愛好家の中には、芦毛と芦毛を交配させる生産者もいると思われるので、その様な場合は、末永く愛馬に親しむためにも、7~8歳を超えた辺りからは、経過観察に力を入れるのも重要と思われる。また、競走馬理化学研究所などの機関で遺伝子診断を行うことも重要かもしれません。

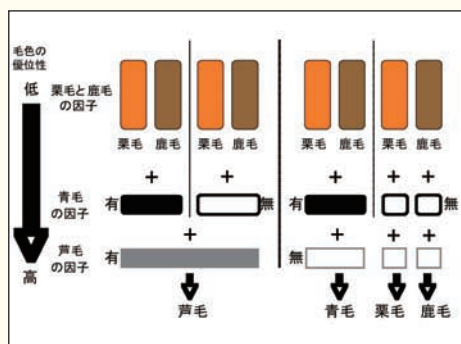


図1. 芦毛とその他の毛色の関係

図は、それぞれの毛色の表れる優位性を示しており、それぞれの因子の有無によって最終的に表れる毛色を模式的に示しています。芦毛は、栗毛・鹿毛・青毛を隠すように表れます。そのため、そのベースに栗毛・鹿毛・青毛の因子を持っていたり、加齢に伴いGrayingが進行することで、それらの毛色は失われます。

図2. STX17遺伝子の構造とプライマー設計

芦毛になるかならないかは、黄色で示した配列が2個(芦毛:G)か1個(非芦毛:g)で決まります。遺伝子診断のためにプライマーは、ピンク・グリーン・ブルーの3つのプライマーを用います。非芦毛ではピンクとブルーのプライマーにより5.4 kbの青色のフラグメントを、芦毛ではピンクとブルーのプライマーにより4.9 kbの赤色のフラグメントを増幅させます。半透明で示したプライマーは、理論的にDNA同士が結合しますが、実験条件の設定により実際の増幅に使用されることはありません。

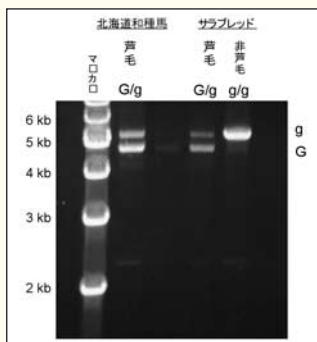
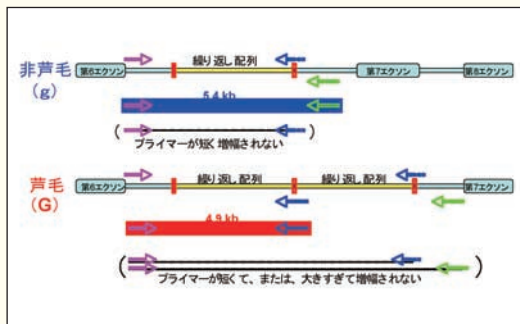


図3. 芦毛の遺伝子診断の電気泳動像

「芦毛の法則」により、芦毛の要素(G:4.9 kb;下側のバンド)が最低1個あれば芦毛となります。日本の競走馬では、芦毛と芦毛を交配させる事が希であるため、生まれてくる芦毛において「G/g」というヘテロ型の結果を得る事が多くなります。図では、北海道和種馬とサラブレッドを用いて遺伝子診断を行い、芦毛が否かの判定を行っています。「G/g」は芦毛として、「g/g」は非芦毛として判断されます。ここには示されていませんが、「G/G」も芦毛として判断されます。

(とどき・てるあき/財団法人競走馬理化学研究所 研究部主任。薬学博士、認定薬剤師)

馬の切手

たうち こうさく
田内 昂作
(馬の切手収集家)

ドイツ

ドイツの馬飼養頭数は2006年50万頭で、日本の約6倍に達する。馬の品種も乗用馬が6割を占め、競走馬はサラブレッドより繁駕競走用のトロッターが多い。連邦共和国制で州の自治権が確立、馬生産協会も各州に独立しており、血統管理をしている。



ベルリン五輪大会(1936年発行)ヒトラーのナチス政権に反発して参加国が減る中、馬術では日本からはロス五輪個人大障害飛越競技の覇者・西竹一が出場した



ヨーロッパ環境保護年(1987年発行)



社会福祉・動物の親子(2007年発行)



絵画『海岸を左に曲がる騎手』(1978年発行)リーベルマン画



シンデレラ(1965年発行)



馬(1997年発行) 左から右ヘライン・ドイツ冷血種(ラインニッシュ・ドイッチェス)、ハフリンガー、フリーゼン馬、シトランドポニー、ハノーバー。いずれも乗用兼鞍用。ライン・ドイツ冷血種は20世紀初頭、ドイツ全馬の半分を占めたが、第2次世界大戦後に急減した



ランツフート結婚500年(1975年発行)ランツフートの公爵の息子とポーランド国王の娘の結婚式を再現するお祭り



第3回ブラウン・リボン競走(1936年発行)ミュンヘン郊外のミュンヘンリウム競馬場で開催



ノイス市2000年(1984年発行)デュッセルドルフの川の対岸に位置し、地名は昔ローマ軍の駐屯地が置かれたことに因む



青年(1969年発行) 左からポニー、サラブレッド、冷血種(農用馬)、温血種(乗用馬)



ホッペガルテン競馬場125年(1993年発行)1868年、ベルリンの東方に開設されたドイツ有数の伝統ある競馬場。第2次世界大戦後1990年の東西ドイツ統一までの間、東ドイツダービーが行われた



馬術(1978年発行)



スポーツ(1999年発行)

ドイツで精液採取研修 冷結精液輸入へ流通調査も



(社)日本馬事協会は、馬の凍結精液の利用と、生産技術の向上を図るため、11月25日から12月12日まで擬牝台を利用した精液採取馬の調教方法、精液採取技術の習得を目的に3人をドイツに派遣した。

研修は、遠野市畜産振興公社の千葉祥一馬事振興課長(右上写真の中央)、熊谷将輝氏(同左)並びに日本馬事協会業務部主査 山下大輔(同右)が当たった。また同時に現在、当協会が推進している海外凍結精液の精液証明書に係る2国間協定の締結を行うため、ドイツにおける凍結精液の流通状況等の調査も併せて行った。

今回の研修は、ドイツ国立種馬所であるヴァーレンドルフで行った。ここは、EU(欧州連合)域内、アメリカ、オーストラリア、韓国等へ凍結精液を輸出している。

擬牝台を利用した馴致調教について、ヴァーレンドルフ国立種馬所のルドガー氏は、擬牝台に乗せるための特別な調教は特に無いと言い、正常な雄であれば、ほとんどが問題なく乗るといった。種馬所の馬の質を見る限り、種雄馬として供用される以前の馬の取り扱い方、しつけの質の高さがうかがえた。このことが擬牝台への馴致に特別な調教を必要としないということではないかと思われる。

最も大切なことは、種雄馬が落ち着いた状態で採精

に臨める環境である。ヴァーレンドルフ種馬所の種雄馬は、どの馬も採精を行う前、非常に落ち着いた。なお、



擬牝台により
採精研修



日本馬事協会が導入した
IMV社製擬牝台

この研修中、種馬所内で、馬に対して人が怒る(怒鳴る、叩く、ハミに当たる)等の行為は全く行われず、馬がたとえマナーの悪いことをした場合においても1回限りむちを使う程度であった。このように馬に対して人が余裕をもって辛抱強く接することが必要であり、馬関係者が配慮すべき重要な点ではないかと思われた。

現在、ドイツにおける凍結精液での受胎率は、場所によりばらつきはあるが、概ね60~65%程度である。凍結精液の品質は非常に高く、流通先でのトラブル等も皆無だということだった。

凍結精液の流通に関してドイツでは、品質管理をEUの指定を受けた州の獣医(日本の家畜保健衛生所のようなもの)が検査を行っており、流通前には必ずその指定獣医が検品を行い、合格したものだけが流通するシステムとなっている。

海外に凍結精液を輸出する場合は、衛生管理もEUが指定しており、EU圏外に輸出を行う場合は、一定の期間、検疫を受けなければならないなど、衛生問題等へも厳しい規制がかけられている。また、衛生等の問題からドイツでは、凍結精液と生精液を販売する種雄馬は、EUの規定により生体同士による交配を行ってはならないこととしている。なお、生体同士による交配を行った場合にあっては、一定の期間凍結精液及び生精液の製造及び販売が禁止される。このことをみてもヨーロッパにおける凍結精液の流通システムの厳格さが分かる。

この研修で習得した技術を実践するため、日本馬事協会では、フランスIMV社製擬牝台を購入、遠野市畜産振興公社遠野馬の里に設置した。これにより周年で凍結精液を製造することが可能となる。また、現在、競技馬として活躍している雄馬からの精液採取が行われる道が開かれたことから、日本の乗用馬生産の一層の飛躍が期待される。

(山下 大輔:日本馬事協会業務部主査)

対州馬の生産率向上へ現地調査

対州馬は、種付けの実績はあるものの、受胎率が低いことが課題となっている。そこで(社)日本馬事協会は、受胎率の改善を図るため、(独)家畜改良センター十勝牧場に調査を委託し、生産率の向上を図ることにしているが、10月28～29日の2日間、不妊馬の直腸検査と超音波診断装置による卵巣、子宮の所見調査を実施した。その結果、子宮、卵巣の異常は認められなかったが、「過肥(太りすぎ)状態、運動不足が受胎率に影響しているのではないか」との所見があった。

調査にあたり日本馬事協会、十勝牧場から対州馬振興会、対馬市など関係団体、対州馬飼養者に調査の趣旨説明が行われ、調査後は対州馬の利活用の方向が話し合われた。その中で不妊馬の治療と繁殖雌馬飼養管理指導は現地の獣医師(岩永壺岐家畜保健衛生所対馬

支所長)に依頼して、生産率の向上を図ることになった。

対州馬の飼養頭数は、平成20年10月1日現在32頭、うち雌馬は21頭だが、10歳以下は11頭で、半数が高齢馬である。また、対馬市所有の雌馬6頭のうち5頭が繁殖に供用されていないことから、日本馬事協会の岩村業務部長は、市に対して繁殖に供するよう要請した。



不妊馬の直腸検査、超音波診断装置で卵巣、子宮の所見調査を行う
十勝牧場職員

与那国馬、登録に向け個体識別対策

与那国馬の繁殖は、複数の種雄馬による「まき馬による繁殖」であるため、親子関係が把握できないことと、近親交配の回避ができない状況にある。また、個体識別は、耳に刻印を行う耳判及び首輪等によって行っているが、登録を行うためには十分でない状況にある。

そこで(社)日本馬事協会は11月22日、(財)日本軽種馬登録協会の須崎調査役の指導の下、日本馬事協会の岩村俊春業務部長も加わり、与那国馬保存会の協力を得て個体識別のためマイクロチップの埋め込みと、DNA型による親子判定のための毛根採取を実施した。

当日は、保存会会員15名のうち、5名の参加であったため、この5名の持ち馬と保存会有の計29頭について実

施することができたが、残り会員10名の持ち馬については、八重山家畜診療所篠寄獣医師が後日実施することになった。



マイクロチップの埋め込みと、毛根採取を行うため、追い込まれた与那国馬

販売伸び悩む 平成20年度 遠野市乗用馬市場

平成20年度遠野市乗用馬市場は10月19日に遠野馬の里「覆馬場」で開催された=写真。昨年に比べ馬の展示方法等の変更はなかったものの、馬の里の育成スタッフの馴致調教技術の向上もあって、上場馬のマナーの改善が見受けられたが、購買者数は21(団体、個人)と昨年を下回り、販売は伸び悩んだ。

市場成績は、上場頭数29頭、販売頭数19頭(売却率66%)、最高価格200万円と低調な市場に終わった。平成14年から同市場は、総販売価格や購買者数は右肩上がりの状況で推移し、関係者はうれしい悲鳴を上げていただけに、購買者数と売却率の低下は価格が伸び悩んだ以上にショックを受ける結果となった。

市場の後開催された検討会では、購買者が減少した要因や今後の対策について議論が交わされた。前者については、昨年は全国各地でインフルエンザが発生したため、ほとんどの馬術競技会が中止もしくは延期したことによる購買者の増加が考えられる。これに対し今年は、インフルエンザが沈静化して、馬術競技会も日程通り開催されたことから、競技者等が遠野に足を運ばなかったこと、近年、遠野の市場が高額になったために購入を控える団体が増えたこと。また、近年遠野の市場に来ている購買者の厩舎数の問題等が考えられる。購買者を市場へ呼び戻すための施策として日程の変更等も議論された。しかし、同市場は、市民参加のお祭りの要素も

あり、また、馬への理解を深めるイベントでもあることを考慮すると、定着している第3日曜日に設定するのもやむを得ないものとの結論に至った。

後者については、日曜の開催であると馬術競技会と重なるが、市場の核となる馬を上場することにより電話等でもせりに参加してもらうことについての議論もなされた。また、オークション名簿にDVDを添付するなど、実際に馬が動いている状況を見せるのが購買者を呼び戻す手段となるのではないかという意見も出された。

今後、目玉となる馬を上場するためには、現在供用されている繁殖雌馬の更新等も視野に入れることも必要となる。現在供用されているフリーデンスラートであれば、外国産種雌馬に固執せず、サラブレッド等を有効に活用する方法もあるのではないかと意見も出された。

種雄馬については、日本大学から寄贈を受けたヴァリシモ号が死亡したため、再来年まではその産駒が市場に上場されるが、その後はフリーデンスラート号産駒だけになってしまう恐れがある。この解決策として、(財)全国

競馬・畜産振興会からの助成を受け、大家畜繁殖性向上対策事業により、(社)遠野市畜産振興公社遠野馬の里に擬牝台を設置し、採精等の技術習得を行うことにしている。この技術に習熟することにより、現在競技馬として活躍している雄馬から安全に精液を採取することが可能となり、欧米で主流になっている雄馬での競技参加の道も開かれることになることから、今後の乗用馬生産活性化の一助となると考えられている。



調教・乗馬技術に高い関心

帯広で第2回馬事知識普及公開セミナー

10月11日、帯広畜産大学でNPO法人「とち馬文化を支える会」(以下、「支える会」)主催(日本馬事協会委託)の「馬事知識普及公開セミナー」が開かれた。「支える会」主催の同セミナーは、8月19日に続き2回目となるが、今回は、午前中は座学、午後は実馬を使っての実習、という丸一日を費やしての本格的な講座。30名という定員に対して37名が応募した。開講前から注目を集めたこの講座の講師を務めたのは、調教の達人=持田裕之氏(D-Jランチ代表取締役)とウエスタン乗馬の気鋭=川島種朗氏(カズホーストレーニング代表)。持田氏は「馬の心理と調教」について、川島氏は「乗馬の基礎知識」について、それぞれ講義した。

午前中の座学は、図や馬具、時には参加者自身の体を使っての実践的で丁寧な講義で、参加者は時に笑い、時に深くうなずきながら受講。参加者最年少である9歳の少女が「わかりやすかった」と微笑む一方、馬歴の長いベ

テラン乗馬経験者からは「初めて知ることが多かった」という意見が聞かれ、初心者から上級者までが納得できる講座となった。

午後の実習は、ナチュラルホースマンシップの調教理念をもとに実際に馬を動かしながらの講義だったが、こちらも自在に馬を操る持田氏と川島氏の技術に参加者の目はくぎづけ。

指によるサインだけで馬が前進したり後退したりする「魔法」のような馬の操作も、実は、馬の心理や感情を深く

理解した上での論理的な調教・乗馬技術に基づくものだという解説に、参加者全員が驚き、感心した様子で、セミナー終了後に行ったアンケートでも、ほぼ全員が「再度受講したい」と回答した。なお、支える会は、1月にも札幌で、北海学園大学・古林英一教授らによる、北海道の馬文化や競馬の歴史などについての馬事知識普及公開セミナーを開催する予定である。

(この項、旋丸 巴)



指のサインだけで馬を横臥させる
持田氏の技術に参加者の目はくぎづけ

川島氏の「乗馬の基本」の実習では
受講生も乗馬して学習

馬とふれあい、新たな利活用に興味

熊本で馬知識普及公開セミナー開く

10月26日(日)、熊本県畜産農業協同組合主催の「ふれあい畜産まつり」の会場で、(社)日本馬事協会主催の「馬事知識普及公開セミナー」が開かれた。今回のセミナーは(財)全国競馬・畜産振興会からの助成を得て実施している「馬生産技術向上推進事業」の一環で、一般市民の方にも馬にもっと関心を持ってもらい馬生産に理解が深まることを目的に開催された。

セミナーは熊本空港のそばに設けられた熊本県家畜市場の特設会場で年に一度の、牛、馬の共進会も兼ねて開かれた「ふれあい畜産まつり」のひとつのイベントとして行われた。畜産まつりは、昼に熊本名産の「あか牛」肉のバーベキューも振る舞われ、会場は終日大勢の市民で賑わった。

午前のセミナーは「新たな馬の利活用(治療的乗馬)」をテーマに、東京農

業大学バイオセラピー学科の川嶋舟講師の講演が行われた。体にハンディのある人を乗馬で治療するドイツでの体験をパワーポイントの動画を使って講演した。熱心に聴き入っていた参加者からは「アニマルセラピーの事がよく理解できた。馬が人間の心身の治療に大きく貢献することがよくわかった。セミナーに参加して本当に良かった」などと感謝の声が多数寄せられた。

午後には、野外の芝生の広場で、いろいろな品種の実馬を集めて、日本馬

事協会の岩村俊春業務部長が「馬の種類及び品種」のテーマで解説した。大型の「ブルトン」、「ベルシュロン」から小格馬の「シュットランド・ポニー」まで会場に陳列され、集まった多くの参加者は講師の説明に熱心に聞き入っていた。中には、「おお、これがベルシュロンという馬か」とその大きさに驚きの声を上げる人もいた。

セミナー参加者は、午前の講演が40人、午後の実馬を展示したセミナーでは100人を超えた。



「馬の種類及び品種」の解説



治療的乗馬の効用を語る川嶋講師

“馬のマラソン”の魅力など披露

岩手県滝沢村で馬事知識普及公開セミナー

(社)日本馬事協会は11月7日、岩手県岩手郡滝沢村の岩手産業文化センター アピオで馬事知識普及公開セミナーを開いた。同日は「新たな馬の利活用(ホーストレッキング、エンデュランス)」(講師:増井光子よこはま動物園ズーラシア園長)、「馬と人間の歴史」(末崎真澄(財)馬事文化財団 馬の博物館・JRA競馬博物館理事 学芸部長)、「馬の見方」(森達也(社)日本装蹄師会装蹄教育センター装蹄研究課長)の3テーマで行われ、136人が聴講、馬と馬文化への関心の高さを示した。

馬のスピードと耐久能力を試すエン

デュランスは欧米、豪州だけでなく日本でも年々盛んになってきている。増井園長はアメリカのテビスカップを始めオーストラリア、フランスの「三大クラシック大会」を完走した世界唯一のライダーとして知られる。

講演では競技者となるための心得、大会への準備、走行上の注意、クルーの働きなどを豊富な体験を交えながら手ほどきした。この競技は高度な馬術技量と体力が求められるが、馬に苦痛を与えない、馬の福祉を最優先する「ベストコンディションド・ホース」が大変な名誉とされると指摘した。人馬ともに耐

久レースだが、馬はおとなしく、従順なほど成績が良いといわれる。耐久性に優れるアラブやアラブ系が多いものの、在来馬の北海道和種馬や木曾馬、さらにはそれらに在来馬と他の軽種の血を入れた半血種も利用価値が高いのではないかと語った。

聴講者に対するアンケートでは「とてもわかりやすかった」「大体理解できた」が圧倒的に多かった。要望としては「今後も開催して欲しい」「定期的な開催を」「飼養管理を始めから勉強したい」「ホースセラピーや馬の見方を実践的に学びたい」など熱心な声が寄せられた。

人材育成し、新技術対策を積極推進

馬生産技術向上推進委員会

(社)日本馬事協会は11月25日、都内で平成20年度馬生産技術向上推進委員会を開き、馬生産技術向上推進

事業の実施状況と20年度実施計画、馬生産地における課題と事業実施方針を検討した。

この中で乗用馬については、優良凍結精液の輸入実現へ向けた取り組みと擬牝台による精液採取・利用試験実

施に入るが、まずはドイツ等からの精液輸入の早期実現を目指す。農用馬は引き続き人工授精の普及を図るほか、馬肉については輸入物との差異化を図り、国産馬肉の消費PRへ産地表示等の必要性が挙げられた。

日本在来馬は平成19年3月に保存と利活用について基本方向を取りまとめた。特に対州馬、宮古馬、与那国馬の3馬種は絶滅危惧種と位置づけ、放牧場の整備、専門家を派遣して繁殖

障害の実態解明と飼養技術研修により技術向上を図った。在来馬は登録規程で「それぞれの原産地で生産されたもの」と規定されているが、頭数の確保

を図るためには他の地域で飼養されているものを日本在来馬として認めることについて保存会、有識者の意見等を参考にしながら規程の整備を検討する。

●馬生産技術向上推進事業推進委員会委員(敬称略:五十音順)

- 岡 明 男／独立行政法人家畜改良センター十勝牧場 改良技術専門役
- 小 川 諄／財団法人中央競馬馬主社会福祉財団 理事長
- 柏 村 文 郎／国立大学法人帯広畜産大学家畜生産科学分野 教授
- 川 崎 広 通／社団法人熊本県畜産協会家畜改良部 登録課長
- 千 葉 祥 一／社団法人遠野市畜産振興公社 馬事振興課長
- 仁 岸 正 之／日本中央競馬会 馬事部長

内 国産種雄馬2頭を購買配置

(社)日本馬事協会は、ばんえい馬の改良増殖を促すために、体型・資質・能力の優れたばんえい種雄馬を購入して農用馬生産地に配置する事業を実施している。

平成20年度の購買は21年1月20日に北海道帯広競馬場で行われ、予め選抜されていた4頭の中から2頭を購入した。購買馬は2月24日に配置先に引き渡された。

平成20年度購買種雄馬の概要



キョクシンオー (平成10年4月28日生)

品 種	半血(鞍)	毛 色	青毛	年 齢	10歳
体 高	174cm	体 長	199cm	体 重	1145kg
胸 囲	248cm	管 囲	29cm		
産 地	本別町	血 統	父/トカチリュウ【半血(鞍)】 母/タカラチハル【半血(鞍)】		
配置先	上川生産農業協同組合連合会				
管理者	剣淵町/菅沼 良一				



シンザンウィーク (平成11年4月6日生)

品 種	半血(鞍)	毛 色	鹿毛	年 齢	9歳
体 高	175cm	体 長	195cm	体 重	1090kg
胸 囲	236cm	管 囲	31cm		
産 地	芽室町	血 統	父/シンザンボシ【半血(鞍)】 母/キタノフクヒメ【半血(鞍)】		
配置先	釧路農業協同組合連合会				
管理者	弟子屈町/長谷川 義晃				

JRAから乗用種雄馬譲り受け

(社)日本馬事協会は、乗用馬生産振興のため日本中央競馬会の繋養馬2頭を譲り受け、種雄馬として平成20年9月中に山梨、岩手県に配置した。

種雄馬●ハルコン デラパラ

(品種:アンダルシアン、毛色:黒鹿毛、1991年生、産地:米国、配置先:山梨県馬事振興センター)

雌 馬●グレイスグレイ

(品種:半血乗系、毛色:芦毛、2000年生、産地:土幌、配置先:遠野市乗用馬生産組合)



ハルコン
デラパラ



グレイスグレイ

韓国の乗用馬登録事業推進に協力

(社)日本馬事協会は韓国馬事会(KRA:金 光元会長)の要請により、乗用馬の登録に向けて開催されたワークショップへ2月11日から14日の4日間、役職員2人を派遣、併せて乗用馬の生産・育成等について意見交換を行った。

KRAはソウル、釜山、済州島で競馬を施行するほか、軽種馬(サラブレッド)の種馬場を持ち、自ら血統(繁殖)登録も行っている。競馬の施行は政府の監督下において同会が国内唯一の施行体であり、競馬発売収入の1部を畜産振興、農漁村対策など公益事業に活用する非営利公益法人である。KRAの一部門である馬登録院は、血統(繁殖)登録のほか競走馬登録を行っているが、現在、韓国では、それ以外の乗用馬や在来馬等を登録する仕組み(登録規程)がない。その一方で近年、韓国でも乗馬への志向が見られ、馬術競技やホースセラピー等への関心も高まっており、競走馬からの転用馬がこれらに仕向けられているが、需要に応えるものは少ない。これら国民の意向と馬産業の将来展望を踏まえて、この度、国を挙げて乗馬事業を産業として育成するためのプロジェクト(PJ)が立ち上がった。

ワークショップには当協会から倉澤専務理事、山下業務部主査がプレゼンターとして出席、まず日本の馬政・馬産の経過と現状、日本の馬と文化の系譜、さらに乗用馬市場の現状、家畜改良増殖法との関連などを紹介。続いて登録規程や登録業務の実際、書式から証明書の発給、情報管

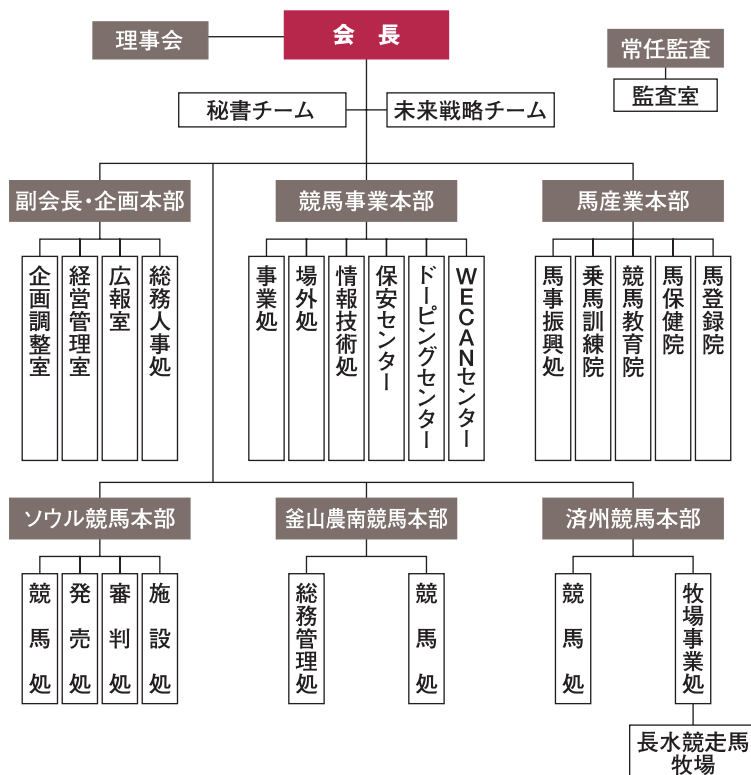
理などパワーポイントを用いて体系的に解説。馬登録院職員からは登録手続きの留意事項、所有者変動への対応、人工授精と受精卵移植に対する規程、登録データの公開等まで活発な質疑が行われた。

韓国ではインターネット普及率が高いため、軽種馬の登録にあつては既にネットを活用した登録が行われている。今回のPJでは、乗用馬等の登録事業をはじめ防疫やワクチン接種等の獣医業務との連携が図れるなどの効率的な登録システムの構築が目論まれている。また、このPJの成就のために「日本の経験からいろいろ習って成果を上げたい」というように進取の意気も盛んだ。

軽種馬の登録と個体識別にあつてはマイクロチップ(MC)が活用されているが、MCの導入は1991年に試験着手(1994年すべての競走馬、2005年血統登録審査時子馬に埋め込み)と日本に先行して実施されている。ここで軽種馬以外の乗用馬等の登録作業が実現すれば、国内すべての馬にMCが埋め込まれることになり、競走成績や馬術競技成績等すべての馬のデータが一元的に管理出来るという画期的な時代を迎えることになる。

わが国では、それぞれの馬のデータが個別団体で管理されており、このデータが相互に活用できる状況にない。データのネットワーク化が望まれる。

■KRA (韓国馬事会) 組織図



熱心な質疑が行われたワークショップ



乗馬訓練院を訪問
(左からCHEON Jai Sikコーチ、倉澤専務、
PARK Jae-Hongチーフ、山下主査、
RHA SeongAn (RAN) 競馬先進化チーム・通訳)

3地域で農用馬生産振興会議

(社)日本馬事協会は2～3月に東北、九州で農用馬生産振興に係わるブロック会議を開催、今後の農用馬生産振興対策のあり方等について協議した。

東北ブロックは2月19日盛岡市、九州は3月24日熊本市に農水省、生産者団体及び関係団体が参加した。北海道は3月30日に帯広市で開く。

2008NARグランプリ ばんえい最優秀馬にはナリタボブサップ号

2008年に地方競馬の発展に顕著な功績があった人、馬を表彰する「NARグランプリ 2008」は2月5日、東京・目黒の目黒雅叙園で行われ、ばんえい最優秀馬にナリタボブサップ号(雄6歳、鹿毛、半血)=写真=が選ばれた。成績は18戦5勝(取得賞金4,071,000円)。馬主・佐藤久夫氏、調教師・大友栄人氏、生産牧場・林豊嗣氏(足寄郡陸別町)

ばんえい記念に次ぐ重量のそりを引く帯広記念、旭川記念、旧4市冠競走のうち2戦のほか北斗賞を制覇、十勝オッズパーク杯ほか古馬一線級がそろそろ重賞競走でも安定した力を発揮した。



JRA賞馬事文化賞に亀和田武著 「どうして僕はきょうも競馬場に」

2008年JRA賞馬事文化賞に亀和田武(59)氏著「どうして僕はきょうも競馬場に」(本の雑誌社、1,680円)が決まった。地方、中央のさまざまな競馬場をめぐる、競馬の醍醐

味だけでなく競馬にまつわる人間模様を描いたことが高く評価された。

馬の涙



馬は悲しい時、人と同じように涙を流して泣くのだろうか。犬は涙を流すことがあるようだが、馬は見たことがないという人もいる。しかし、人との親和性が深く、賢く、感性豊かな馬は悲しいと涙を流し、泣くようだ。文学者・教育者の中西進さんは最近『古代往還』(中公新書)を出した。その中で日本エッセイスト・クラブ編『木炭日和』(文春文庫)所収、保阪正康さんの「祖父と馬の涙」を稀に見る名編と激賞している。保阪さんは札幌市出身、「昭和史を語り継ぐ会」を主宰するノンフィクション作家・評論家で知られる。手元にあった文庫のさわりを拾ってみた。

「高校1年の夏休みが始まった日(農家だった)祖父と馬小屋に入ると、馬はまるで祖父に甘えるように顔をこすりつけ、鞍をつけるよう催促した」「私が馬の背に乗ると、馬はそれを拒むように身体をふるわせた。すると祖父は激しい口調で叱り、手で馬の身体を軽く叩いた。馬はおとなしくなったが、祖父が私の後ろに乗ると喜びをあらわすように、啼いたのである……」やがて祖父は脳溢血で倒れ、帰らぬ人となった。「祖父の葬儀のとき、馬小屋からは祖父の愛馬が悲しそうな声で啼き続けた。私が一人で馬小屋に入り、祖父を真似て馬の首を軽く叩くと静かになった。だが馬の目には涙が浮かんでいた。その涙が目尻に貯まっていた」。葬儀のあと「馬は祖父の友人にもらわれていった……(だが悲しみの余りか)やがて誰かの言うことも聞かない暴れ馬だと疎んじられ、次々と人の手に渡ったという噂を耳にして(私は)密かに泣いた」。

中西さんは、保阪さんのエッセイを読むずっと前に『万葉集』の中に三野王(みみのおう)の死を愛馬が涙を流して悲しむ姿の記述が忘れられないでいたという。

いずれも馬は飼い主の死の現場を直接見ていないようだが、それにもかかわらず、馬は人の動きや異常な気

配を察し、死を悟るのではないか。それとも人には分からぬ嗅覚などが働くのかもしれない。

勇猛果敢な戦功のかけで馬の悲しみ、涙が色濃く出てくるのは「生きた兵器」といわれた軍馬の記録だ。盛岡市の竹澤哲男さんは「もの言わぬ戦友」、宇都宮市の川井勢伎さんは「消えた鞍馬と共に」(いずれも自費出版)の作品は戦場へ送り出され、極限の運命を課された馬の記録である。一読してみればそれ自身が馬たちの悲哀を留めた鎮魂碑そのものだ。「消えた鞍馬……」には「愛国婦人会の人達が愛馬行進曲を歌い出すと貨車が動き始め、あのやさしい大きな青毛の目からポロリと涙が落ちた」、「もの言わぬ……」には「家族の一員として育てた馬が微用になり、車に乗せるとき、いきたくないと涙をポロロこぼしました。車に乗ろうとしないうのを無理やり乗せてやったことが今も忘れられません」(盛岡市・木村忠司さん)と痛恨の思いを綴っている。

外地での別れも辛い。「終戦の時、台湾の病馬廠において、軍馬との悲しい別れをしてきました。大きな黒いひとみからポロポロ涙を流す悲しい顔、悲しいいななきを残しながら逝った哀れな姿は忘れられることはできません」(北海道津別市・伊藤一雄さん)。「泥の中で砲を引き、つらいと兵と共に大粒の涙を流しました。敵の機銃で腹をやられ、腸がはみ出して泣き叫ぶ馬……」。大戦中、旧満州へ大量の軍馬を送り出した十勝の旧仙美里駅には馬を貨車に乗せるために渡した「馬踏板」が残された。貨車に乗せられ過酷な戦場行きに抵抗した蹄の跡、軍馬の涙の跡でもあった。

二度と生きて戻ることのない軍馬の出征……。川井さんの母は詠んだ。

戦場に

馬も召されて行く夕べ
いなく声の遠ざかる





©Rai Shizuno

生命の歓喜と 哀愁と

騎馬劇団『ジンガロ』日本公演

フランスが世界に誇る騎馬劇団『ジンガロ』が約4年ぶりに来日、3月26日まで東京・木場公園内特設シアターで公演している。出演馬38頭、出演者35人と前回は大幅に上回るスケールだ。



©Rai Shizuno



©Rai Shizuno

新作「バトゥータ」(拍子をとるの意)のテーマは生と自由。ルーマニア遊牧民の生活をモチーフに、時に哀愁を漂わせたメロディと共に現れたかと思うと、次には激しく騎馬が、馬車が疾走するなど速いテンポの競演が観衆を圧倒する。2頭の馬にまたがる者、伴奏しながら走って馬の背に飛び乗る者、馬の背から腹の下に回り込んだり、地上に落ちた帽子を片手で拾い上げる者…スリリングなアクロバットとユーモアに富んだ華麗な演技は、まさに人馬一体の妙技だ。

料金／20,000円～8,000円(税込み、全席指定)
問い合わせはチケットスペース ☎03-3234-9999



©Rai Shizuno

馬に惚れ抜いた人生

高本 延吉

私は旧制中学2年生の時から乗馬クラブに通い、馬に憧れて北海道の獣医大学に入った。だが、当時は学徒動員令によってほとんどの学生が軍需工場で働かされたが、私たちは幸いにも軍馬補充部の原始林に放され、300頭もの馬群と一緒に暮らした。そして終戦。

戦後は郷里兵庫県で畜産を中心とした地方行政に従事したが、馬への慕情忘れがたく、遂に38歳から競馬関係の特殊法人に移り、60歳まで馬産・畜産行政と調教師・騎手の養成訓練に没頭する毎日だった。

そして最後は縁あって日本馬事協会にお世話になり、昨年5月までの20年余り、馬そのものに係わることができた。

この間全国の様々な馬や関係の方々とお会いでき、楽しい時を過ごさせていただいた思い出は尽きないものがある。中でも本誌の前身であった「ホースメイト」の刊行は、全く私の在任期間と同一であり、特に創刊に当たっては、当地区全協の担当理事でもあった香川荘一さんや日本馬事協会顧問の澤崎坦先生に大変お世話になった。この雑誌が長い間立派に刊行出来たのは、一重に関係各位の並々ならぬご努力の賜物と思う。

この程再び昔の機関誌と同名の「馬事協会便り」に戻ったわけだが、昨年10月に送られてきた第1号を見て、正に馬物語の真髄に達した内容だと思う。見事な記事で、馬事協会がますます発展されますよう祈っております。馬や関係者との付き合いは無くなっても、暇にまかせて馬の絵や詩に親しむ昨今です。

最後に私の書いた漢詩絵を1つ紹介しましょう。盛唐の詩人岑参が書いた蹟中作(砂漠の中の作)という詩で「馬を走らせ西へ西へと行けば、天にまで行きつきそうだ。家を出てからもう月が2回も満ちた。今夜はどこに宿をとるか。万里の遠くまで広がる砂漠には人家の煙一つ見えない」と嘆きながら走り続ける姿を描いてみた。

(こうもと・えんきち 元日本馬事協会理事)



馬の毛色と特徴 第3版



●A4判／62頁／2,500円(税込)

【発行】

(財)日本軽種馬登録協会

〒105-0004 東京都港区新橋4-5-4 日本中央競馬会新橋分館内
TEL.03-3434-5315

馬の登録を行う場合、軽種馬は(財)日本軽種馬登録協会(以下、軽登協と略)、軽種馬以外の馬の登録は(社)日本馬事協会が行う。登録に当たっては「馬の毛色及び特徴記載要領」の定めにより馬の毛色、白斑及び旋毛などの特徴を血統または繁殖登録原簿に記載しなければならない。毛色、白斑などの特徴は個体識別の要素で、本著は馬登録審査員はもちろん生産者やすべての馬関係者に必須のハンドブックである。

昭和54年12月にカラー図版を用いて初版が発行され、平成3年8月に一部毛色の写真図版を追加し、第2版が出た。正確で分かりやすいと好評で、続版が待望されていた。

改定の3版は平成19年産駒からマイクロチップの埋め込みが始まり、その番号が登録証明書などに記

載されることになったこと、マイクロチップの仕組みや審査の方法を記載、さらに白斑やその他の特徴の記載方法の一部が簡略化されたこと、軽登協の「馬の毛色及び特徴記載要領」が平成18年末に改正されたことから、該当が所について内容を改めた。また、毛色写真図版の一部を新たなものに差し替えるとともに、毛色の遺伝について近年の研究成果を加味した解説を行い、リニューアルを図った。

【申し込み・問い合わせ】

申し込みは、郵便局から郵便振替で。

口座番号●00180-5-99121／加入者名●(財)日本軽種馬登録協会／金額●税込み2,500円+送料500円、合計3,000円。／記載●通信欄に購入書籍名、購入冊数、依頼人欄に郵便番号、住所、名前、電話番号を明記／問い合わせ●軽登協総務部 03-3434-5315へ。

鎌倉の馬の骨 漂着骨を調べる

芝田 英行 著



●A5判／120頁／4,500円(税別)

【発行】

どうぶつ社

〒166-0002 東京都杉並区高円寺北4-27-4
TEL.03-3339-7123

海岸などで漂流物を拾い、収集するビーチ・コミングという活動が盛んになり、それを裏付けるように「漂流物学」もあるという。四方海にかこまれた日本は、この分野でも世界の先端を行くのだろうが、著者は「考古動物遺体分野の『骨屋』」というから恐れ入る。

それはともかく、著者の住む近くの由比ヶ浜と材木座海岸等で目立って採集されるのが馬の骨。加えて中には牛、馬、イルカの頭蓋骨と一部の四肢骨ばかりが列を成して並べられた異様な空間が検出され、漂着しただけでなく遺跡・埋葬地だったこともうかがわせる。それにしても大量の中・小型の在来馬の骨の漂着・出土はなぜが多く、在来馬のルーツと伝播のロマンを想起させる。同時に鎌倉の浜の近くに動

物解体場があり、骨を素材とした加工品が製作されていた可能性を示唆している。調査によると漂着ごみの68%は河川経由の流出(陸地起源)、31%は海岸放置ごみ、海洋からは1%とあり、陸地起源が優勢なようだが、まだ結論付けるものはないようだ。

本著のかなりの部分は全身部位別骨の計測値比較の写真図版とデータであり、『骨屋』の面目躍如としかいようがない。それもトカラ馬、御崎馬、木曾馬、果てはサラブレッドの骨とも比較し論考している。図版のチェック、骨の比較等では(財)馬事文化財団馬の博物館の学芸員の協力を得てまとめたという。

発見された馬の骨は、何を語るのか。新たな分析と、謎解きに期待したい。

遠野馬物語

高草 操 著



●A5判／160頁／1,600円(税別)

【発行】

(株)里文出版

〒160-0022 東京都新宿区新宿3-32-10
TEL.03-3352-7322

岩手県遠野は、民俗学の柳田国男が著した民話「遠野物語」舞台で有名だが、今も馬の里として知られる。著者は長年培われた「他に類を見ない人と馬のほどよい距離と関係」に魅せられ、取材を重ね、現代版「遠野馬物語」をまとめあげた。

遠野の魅力は乗用馬、競走馬、在来馬、農用馬など「馬に関わるあらゆる分野の人達が集まってくること」、次に「いろいろな人たちに会うのが楽しみ」で自然に足が向く懐の深さにあるという。馬も人も過去の話でなく、今であるということは「物語」は今も生き続け、終わらないことを物語っている。

第1話・重要な文化的景観、第2話・遠野馬物語—今昔、第3話・乗用馬のセリ…などからなる30章が詩情豊かな写真とエスプリの効いたエッセイで展開される。雪の中、地駄引きの茸毛の馬と青年、真夏の高原の馬群、昼寝する農用馬たち、早春の春駒、親子

馬の手綱を引く馬子唄の老人、追う人・引く人…。皆熱い馬力大会、祭りに正装した農用馬、馬そりを引く馬、神事流鏝馬、しし踊りの群舞、四季折々の花に彩られる馬頭観音石群…どれをとっても日本人の古里を連想させる、かけがえのないシーンだ。

例えば夏山に半野生状態で放牧される馬たちの生息は、サラブレッドや在来馬とは違うらしい。著者の言葉を借りると「人と深く結びつきながらも、馬として自らの意志と知恵で暮らす」しなやかさとたくましさを発揮するという。豊富な写真を眺めていると馬も人も表情豊かで、命の輝きをはなち、語りかけてくる。

先行き不安と殺伐とした世相から一時忘れるためにも、真に豊かな生き方は何かを問いかける一書である。親子で、学校で読んで、読後感を話し合いたい。

現代 流鏑馬考

寺岡 輝朝

最近、スポーツ流鏑馬なるものが、はっていると聞く。何やら神官のような姿で乗馬して疾走する、馬上から弓射的中した箇所を点数を競う競技だそうだ。一方、各地の神社の氏子等により神社の例祭日に行われている流鏑馬神事や武家故実（古来の定例・慣わし）を忠実に伝承している徳川將軍家の小笠原流と熊本細川藩の武田流の流鏑馬がある。古馬術を武芸として研究している武道家である私の目から見た、これら三種類の流鏑馬についての感想を述べてみようと思う。

まず本来の流鏑馬の姿を伝えているのは、武家系統の小笠原流と武田流であろう。次に各地の神社氏子会

等により執行されている民俗的流鏑馬は、本来の姿から大分変化しているものが多い。矢を的中させることを要さずに、馬の走り跡での占いを目的にするもの、引き馬で馬を留めて的を射るもの、単に馬で走るだけのもの、馬を使わずに地上で弓を射るもの、競走馬の軽種馬を使用し、むらの若者の人生での通過儀礼として度胸試行的に行ういわばバンジージャンプ的流鏑馬等など。これら民俗的流鏑馬は、文化人類学的には非常に価値があるが、武術とは言えないものである。やはり、

武士ではない人々が伝承した伝統行事であるといえよう。

スポーツ流鏑馬について感想を述べてみたい。

スポーツ流鏑馬は、前者の武術である武家流鏑馬や民俗的な神事流鏑馬と違い、剣道や弓術のような競技スポーツである。分かりやすく言えば真剣の日本刀を使用する武術である古流剣術に対する防具に守られ、軟らかな竹刀でポイントを競うスポーツである剣道との関係に等しい。スポーツなので、特定の神社の氏



鎌倉時代の伝統的武家流鏑馬装束（筆者近影）

子でなければいけないとか、特別な家柄である必要はない。大相撲や能などの如き女人禁制もない。また、武家故実の武術ではないので、型に統一性がないし、服装も自由で、時代背景や故実を無視している。しかし、そんな手軽に民俗的流鏑馬や武家流流鏑馬の雰囲気味わえるという所が、人気の原因であると思う。特に日本在来馬を使用する団体が多い。そのことがスポーツ流鏑馬の安全性を高めていることも見逃せない点である。即ち特別な訓練をする必要がないのである。

これら三種類の流鏑馬は、名称は同じでも、まるで別物である。武士の伝統を継承保存することを目的とするもの、各地の神社等で神官や農民が伝えた無形文化財としての流鏑馬、そして伝統とは関係なく社会人のレクリエーションスポーツとしての流鏑馬と、目的も内容も、まったく異なっている。しかし、それぞれ今後とも、三種類の流鏑馬各派が、当方が優れているなどと言いつ争うことなく、共存繁栄していくことを私は願ってやまない。

（てらおか・てるとも／日本古式馬術研究者）



江戸時代の騎射挟物【はさみもの】装束（射手は筆者）

いま、流鏝馬が熱い

埼玉県毛呂山町歴史民俗資料館が全国調査

古式ゆかしい、勇壮な流鏝馬の人氣が高まっている。出雲伊波比神社で毎年11月と3月に流鏝馬（県指定民俗文化財）を行っている埼玉県毛呂山町歴史民俗資料館は、全国で流鏝馬を実施している現状把握と、祭礼としての流鏝馬の歴史・民俗的意義を明らかにするため、全国調査を行い、このほどその結果をまとめた。

調査は同資料館がサポーターやぶさめ部会と共に、リストアップした市町村と寺社等に照会してもらい、調査票を送付、記入後返送されたデータを取りまとめたもの。それによると春秋の例大祭奉納が多いが、流鏝馬神事と銘打ったものが目立つ。射手は日光東照宮や鶴岡八幡宮など伝統と格式のある寺社は小笠原流、武田流が多い。

その他、地方の神社等は地元寺社が主役だが、なかでも「子供」というのが21あり、伝統文化を地域で保存・伝承しようとする思い入れが感じられる。

同資料館は伝統文化の保存・啓発へ、この全国流鏝馬調査データベースを公開している。問い合わせ先は次の通り。

毛呂山町歴史民俗資料館

〒350-0432 埼玉県入間郡毛呂山町大類535 TEL.049-295-8282 FAX.049-295-8297
URL <http://www.town.moroyama.saitama.jp/rekisi/> E-mail rekisi@town.moroyama.saitama.jp

都道府県	都市町村	祭礼名称	執行地	執行日
青森県	八戸市	遠野南部流鏝馬	櫛引八幡宮(南部一の宮)	10月5～7日
岩手県	奥州市(江刺市)	西沢目大名行列・梁川流鏝馬	奥州市江刺区梁川地区	9月13日
岩手県	遠野市	遠野郷八幡宮例大祭	遠野郷八幡宮	9月14,15日
岩手県	盛岡市	盛岡八幡宮例祭	盛岡八幡宮	9月16日
宮城県	塩竈市	鹽竈神社例祭	鹽竈神社	7月10日
宮城県	仙台市青葉区	例大祭	大崎八幡神社	9月15日
山形県	酒田市(鮎海郡八幡町)	八幡神社例祭	八幡神社	5月1日
山形県	寒河江市	神事流鏝馬	寒河江八幡宮	9月14・15日
山形県	東置賜郡高島町		阿久津八幡神社	9月15日
福島県	いわき市	例大祭	飯野八幡宮	9月14・15日
福島県	いわき市	撰社八幡神社例大祭	住吉神社	10月13日に近い日曜日
福島県	石川郡古殿町	秋の例大祭	古殿八幡神社	10月第2土、日曜日
福島県	伊達郡川俣町			
茨城県	土浦市(新治郡新治村)	流鏝馬祭	日枝(ひえ)神社	4月第1日曜日
茨城県	鹿嶋市	御田植祭	鹿嶋神宮境内	毎年6月1日
茨城県	下妻市	あじさい祭り	大宝八幡宮	6月25日
茨城県	水戸市八幡町	流鏝馬祭	八幡宮	8月16日
茨城県	笠間市	神事流鏝馬	笠間稻荷神社	11月3日
栃木県	小山市	篠塚初午祭	篠塚稻荷神社	3月第2日曜日
栃木県	日光市	日光東照宮古式流鏝馬神事	日光東照宮	5月17日、10月16日
栃木県	真岡市	例大祭	中村八幡宮	9月17日(第3日曜日)
栃木県	大田原市	例大祭	那須神社	9月中旬
群馬県	富岡市	流鏝馬祭	貫前神社	4月15日
埼玉県	比企郡ときがわ町(都畿川村)	流鏝馬	萩日吉神社	3年に1度1月15日
埼玉県	所沢市	流鏝馬神事	糝谷八幡神社	9月29日に近い日曜日
埼玉県	入間郡毛呂山町	秋季大祭(通称:流鏝馬祭り)、春祭	出雲伊波比神社	11月3日、3月第2日曜日
千葉県	鴨川市	吉尾地区祭礼	吉保八幡神社	9月最終日曜日
千葉県	銚子市柴崎町	海上八幡宮流鏝馬	海上八幡宮	旧8月15日
千葉県	香取郡東庄町			
東京都	利島村	流鏝馬	利島八幡神社	閏年の翌年元旦1月
東京都	奥多摩町		奥氷川神社	1月3日
東京都	奥多摩町	やぶさめまつり	神明神社	1月3日以後最初の土曜日
東京都	奥多摩町		丹生明神	1月7日
東京都	大田区	七草こども流鏝馬祭	六郷神社	1月7日
東京都	台東区	浅草流鏝馬	隅田公園	4月20日
東京都	新宿区西早稲田	高田馬場流鏝馬	水稻荷神社	10月10日
東京都	新宿区	高田馬場流鏝馬	穴八幡宮・都立戸山公園	10月11日
神奈川県	鎌倉市	鎌倉まつり	鶴岡八幡宮	4月第3日曜日
神奈川県	鎌倉市	鶴岡八幡宮流鏝馬神事	鶴岡八幡宮	9月16日
神奈川県	高座郡寒川町	寒川神社流鏝馬神事	寒川神社	9月19日
神奈川県	足柄上郡山北町	例大祭	室生神社	11月3日
神奈川県	逗子市	逗子海岸流鏝馬	亀岡八幡宮	11月
新潟県	佐渡市(旧相川町)	大倉まつり	大幡神社	4月11日
新潟県	佐渡市(佐渡郡新穂村)	日吉神社例大祭	日吉神社	4月14日
新潟県	佐渡市目黒町(旧畑野町)	熊野神社例祭	熊野神社	4月14日・15日
新潟県	佐渡市(旧金井町)		八幡宮	4月15日
新潟県	佐渡市(佐渡郡羽茂町)		度津神社	4月23日
新潟県	佐渡市(両津市)	羽黒神社神幸祭	羽黒神社	6月15日(3年に一度)
新潟県	長岡市	流鏝馬祭り(秋祭)	金峯神社	7月15日
新潟県	佐渡市泉(旧金井町)	荒貴神社例祭	荒貴神社	8月7日
新潟県	佐渡市(旧佐和田町)		八幡宮	8月15日
新潟県	佐渡市中興(旧金井町)	中興神社例祭	中興神社	9月1日
新潟県	佐渡市(旧両津市)	八幡祭り	久知八幡宮	9月15日
新潟県	佐渡市(旧畑野町)	畑野祭り	熊野神社	10月15日
富山県	射水市(射水郡下村)	ヤンサンマ	加茂神社	5月4日(明治18年より)

山梨県	南都留郡富士河口湖町	甲斐の勝山やぶさめまつり	富士御室浅間神社	4月29日
山梨県	富士吉田市	例大祭	小室浅間神社	9月19日
長野県	大町市	若一王子神社例祭	若一王子神社	7月29日
岐阜県	可児市	土田白鬚神社大祭	土田白鬚神社	4月第1日曜日
岐阜県	中津川市	神明神社例祭	苗木神明神社	9月17日
岐阜県	土岐市	子供流鏝馬	妻木八幡神社	10月第2日曜日
静岡県	富士宮市	流鏝馬祭	富士山本宮浅間大社	5月4～6日(5日)
静岡県	焼津市	焼津神社例大祭	焼津神社	8月13日
静岡県	三島市	流鏝馬神事(例祭期間に齋行)	三嶋大社	8月15～17日(17日)
静岡県	湖西市	流鏝馬祭り	古見八幡神社	10月第1土日
静岡県	湖西市	熱田神宮例流鏝馬まつり	熱田一宮神社	10月第1日曜日
静岡県	袋井市(磐田郡浅羽町)	梅山八幡神社秋祭り	梅山八幡神社	10月第1日曜日
静岡県	湖西市	流鏝馬祭り	女河八幡宮	10月第2日曜日
静岡県	浜名郡新居町	二宮神社例祭(秋祭り)	二宮神社	10月第2日曜日
静岡県	湖西市	流鏝馬(ウマトビ)	八幡諏訪神社	10月第3日曜日
愛知県	一宮市	真清田神社例祭	真清田(ますみだ)神社	4月3日
愛知県	豊川市(宝飯郡一宮町)	神幸祭	砥鹿神社	5月3日、4日
愛知県	北名古屋(西春日井郡師勝町)	熊野神社祭礼	熊野神社	10月8日(体育の日)
愛知県	春日井市	伊多波刀神社秋祭り	伊多波刀神社	10月第2日曜日(体育の日)
三重県	員弁郡東員町	流鏝馬と上げ馬神事	猪名部神社	4月第1土、日
三重県	桑名市(桑名郡多度町)	多度祭(御例祭)	須賀の馬場	5月4～5日/11月3日
滋賀県	甲賀市甲賀町	流鏝馬	椿神社	4月3日に近い日曜日
滋賀県	高島市(高島郡今津町)	川上祭	日置神社、津野神社	4月18日
滋賀県	高島市(高島郡新旭町)	竹馬祭	佐々木神社	5月3日
滋賀県	高島市(高島郡新旭町)	日爪祭	若宮八幡宮	5月3日
滋賀県	神崎郡能登川町		大浜神社	5月3日
滋賀県	高島市(高島郡安曇川町)	田中祭り	田中神社	5月4日
滋賀県	高島市(高島郡新旭町)	七川祭	大荒比古神社	5月4日
滋賀県	高島市(高島郡新旭町)	竹馬祭	若宮八幡宮	5月5日
滋賀県	蒲生郡竜王町	苗村神社節供祭	苗村神社	5月5日
滋賀県	大津市		近江神宮	11月3日
京都府	南丹市(船井郡菌部町)	神幸祭	摩気神社	10月14、15日に近い2日
京都府	南丹市(船井郡日吉町)	日吉神社の馬駆け	日吉神社	10月15日に近い日曜日
京都府	南丹市(旧船井郡八木町)	秋祭り(流鏝馬神事)	幡日佐神社	10月21日
京都府	南丹市(船井郡八木町)	流鏝馬神事	幡日佐神社	10月21日
大阪府	大阪市天王寺区	走馬神事(ソウメシンジ)	生国魂神社	毎年5月5日
大阪府	大阪市北区	流鏝馬神事	大阪天満宮	10月25日
兵庫県	三木市		大宮八幡宮	2月17日
兵庫県	朝来郡朝来町		八幡神社	10月10日
兵庫県	神戸市北区山田町	例祭	東下大歳神社→七社神社→六条八幡神社(元東下大歳神社)	10月第2日曜日
奈良県	奈良市	春日若宮のおん祭り	春日大社	12月17日
和歌山県	日高郡みなべ町	須賀神社馬駆け	須賀神社	10月8日
和歌山県	田辺市	秋祭り(流鏝馬)	芳養(はや)八幡神社	11月3日
島根県	松江市(八束郡美保関町)	爾佐神社の大祭礼	爾佐神社	4月3日
島根県	鹿足郡津和野町	鷲原八幡宮例祭	鷲原八幡宮	4月第2日曜日
島根県	隠岐郡隠岐の島町	水若酢神社大祭・山曳神事	水若酢神社	奇数年の5月3日
島根県	出雲市(簸川郡大社町)	大祭礼、流鏝馬神事	出雲大社	5月14～16日
島根県	隠岐郡隠岐の島町(西郷町)	玉若酢命神社御霊会風流	玉若酢命神社	6月5日
島根県	益田市	流鏝馬行事	やぶさめ公園(高津川河川敷)	陰暦8月1日(人麿の誕生日)
島根県	隠岐郡隠岐の島町(西郷町)	隠岐武良祭風流	八王子神社、一之森神社	10月19日
岡山県	久米郡美咲町(中央町)		境神社	10月14日
岡山県	岡山市	流鏝馬神事	吉備津彦神社	10月23日祭礼日
広島県	山県郡安芸太田町	八幡の流鏝馬神事	堀八幡神社	10月第1日曜日
山口県	下関市	秋祭り	福江八幡宮	10月下旬の土曜日
高知県	安芸郡東洋町	流鏝馬	野根八幡宮	10月第1日曜日
高知県	高岡郡四万十町(窪川町)	秋祭り	興津八幡宮	10月15日
高知県	安芸郡東洋町	流鏝馬	名留川春日神社	旧暦9月17日
高知県	幡多郡三原村			
福岡県	飯塚市(旧嘉穂郡筑穂町)	放生会(秋の大祭)	大分八幡宮	9月最終日曜日
福岡県	福岡市西区	秋季大祭(くにちまつり)	飯盛神社	10月9日
福岡県	飯塚市(旧嘉穂郡庄内町)	御神幸祭(流鏝馬)	綱分八幡宮	10月13日に近い土日、隔年
福岡県	糸島郡志摩町	新嘗祭(流鏝馬)	桜井神社	10月18日
福岡県	京都郡苅田町		白山多賀神社境内(松庭)	
佐賀県	杵島郡白石町(有明町)	稻佐神社秋季例祭(オクンチ)	稻佐神社	10月19日
佐賀県	杵島郡白石町	妻山神社例祭(オクンチ)	妻山神社	10月19日
佐賀県	武雄市(武雄町、朝日町)	武雄流鏝馬	武雄神社	10月23日
佐賀県	武雄市(杵島郡山内町)	お供日(流鏝馬)	黒髪神社下宮	10月29日
長崎県	松浦市	例大祭志佐くんち(流鏝馬)	淀姫神社	10月26日
熊本県	熊本市	出水神社春季大祭奉納	出水神社	4月22日、10月17日
熊本県	阿蘇市(阿蘇郡一の宮町)	田実神事、田の実祭り	阿蘇神社	9月25日
熊本県	下益城郡富合町	六殿神社秋季大祭	六殿神社	10月9日
熊本県	熊本市	武田流(細川流)騎射流鏝馬演武披露(お城祭り)	熊本市域熊本城長堀前	10月14日
大分県	国東市(国東郡国見町)	伊美別宮社秋の大祭	伊美別宮社(国見町伊美)	10月15日
宮崎県	宮崎市	宮崎神宮神事流鏝馬	宮崎神宮	4月3日
鹿児島県	肝属郡肝付町(高山町)	流鏝馬	高山四十九所神社	10月第3日曜日
鹿児島県	日置市(日置郡吹上町)	流鏝馬奉納	大汝牟遅(おおなむち)神社	11月23日
鹿児島県	曾於市(曾於郡末吉町)	住吉神社の流鏝馬	住吉神社	11月23日

日本馬事協会は団体会員、個人会員の皆様を始めご支援いただいている方々へ、活動近況のご報告を兼ねて、機関誌「馬事協会便り」をお届けいたします。10月、3月と年2回発行を予定しています。

馬事協会便り
2号

2009年3月16日発行 発行者/倉澤 景晴
発行所/社団法人日本馬事協会 TEL03-3297-5626
http://www.bajikyo.or.jp E-mail:jeaa@bk9.so-net.ne.jp
印刷/日本印刷株式会社



わら馬 (長野県真田町戸沢)

同行した親同士が「ねじ」と呼ぶ美しい菓子を交換する。子供の無病息災を願う

72×84×37cm



小沼のわら馬 (長野県中野市)

大宮武一郎 作

3月8日、わらづとに入れたあんころ餅をわら馬につけて道祖神にもちより、豊作、家内安全を祈願した

44.4×60.6×13cm

(中野市経済部商工観光課蔵:山岸安信馬コレクションから)

社団法人 日本馬事協会

〒104-0033

東京都中央区新川2-6-16 (馬事畜産会館7F)

TEL.03-3297-5626 FAX.03-3297-5628

URL <http://www.bajikyo.or.jp>

E-mail jeaa@bk9.so-net.ne.jp